

## シンポジウムS2-4 高気圧酸素治療に関する医師育成についての個人的な意見

堂籠 博

琉球大学病院高気圧治療部

高気圧酸素治療（以下HBO）は、専用の装置を使用し高気圧環境下にて高濃度の酸素を吸入するものである。HBOは各分野の診療に応用されているが、HBOの現状に関してはいくつか厳しいものがある。その中の一つとして、HBOに関する医師が不足している現状がある。本発表ではこの点について、個人的ではあるが解決策への意見を述べた。

HBOでの医師の役割は以下の内容があると発表者は考える。

- 1) HBOの適応の有無を判断する。
- 2) HBOの適応があればその具体案を立案し、実施条件や回数の設定を行う。
- 3) HBOについての説明を行い、同意を得る（いわゆるICの実施）。
- 4) HBOでの経過の判断・評価を行う。
- 5) 急変時の対応を行う（必要時）。

HBOに従事する医師にはこのような役割があると発表者は考えるが、これらの内容を新規の医師が発揮できるようになるには、指導者となる先輩医師の存在や各医療施設の状況など、知識・経験を積み適切な環境が必要である。

この点に関して、以前から指摘されている項目であるが、以下の留意すべき各項目があげられよう。

- (1) 専門医がHBOに携わっている医育機関が少ない現状がある

HBO専門医の所属先から専門医の配置を推測すると、全国の医育機関（79施設）に専門医が所属している可能性ある施設数は22施設（全施設の22%）の状況である。このように、専門医がHBOを担当している医育機関が少ない現状があり、医学生へのHBOに関する卒前教育が十分となりにくい状況が推測される。

- (2) 指導的立場でHBOを実践する医師が十分多いとは言えない現状がある

全国にHBO装置を有する施設数は2021年安全協会の発表によると459施設である。学会に所属する専門医数は192名であり（学会HPより）、この結果、国内でHBOが実施されている各施設で専門医が直接HBO診療に携わっている状況とはいえない。また、新しくHBOを勉強しようとする各医療機関の医師が、実務経験や訓練を積む機会が少なくなる状況が生まれやすい。この結果、臨床でのHBOとの接点が増えます少なくなる状況となる。

これからは、十分な卒前教育を受けぬまま、実臨床でもHBOを実施・担当しにくい状況が続く可能性がある。

このような現状でHBOに従事する医師の育成を考えるに、以下の項目を個人的には考える。

### 【対応案】

- (1) HBO専門医を増やす

この点は以前から学会としても努力されてきている問題であり、継続する必要性があろう。

- (2) より実務的な内容の講習会開催を行う。

実際の臨床に関してより具体的な注意点等を伝えてゆく講習会、すなわち、実務的な内容の習得がより可能となりやすい講習会の開催があれば、HBO臨床の勉強もより可能となりやすいのではなからうかと発表者は考える。診療報酬改定後に行われた講習会を今後も継続してゆくことや、専門医講習会でもこのような内容を増やしてゆくことも一方法と考える。この方法の目的は安易な流れを作るのではなく、このような講習会受講等でより実務的な内容の教育がすすみ、今後HBOを担当してゆく医師のHBOへの理解度がさらに進みやすくすることを期待するからである。

HBOの場合は未確定な項目も多いが、より実務にそった内容が講習会等で示されれば、経験値の浅い医師がHBO診療を行いやすくするきっかけにもなるかもしれない。

- (3) 実践的なマニュアルの提示

より実務的な内容の提示があれば、国内の各施設でHBOに携わる可能性のある（若手）医師もHBO診療に参加しやすいと考える。

この提案が解決策のすべてではないが、一つ一つの要因を解決してゆくことも重要かと考える。